

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 実験の結果より、わかったことをまとめることができるようになった。班内での話し合い活動を通して、理解したことを確認できるようになった。

(2) 課題

- ・ 主体的に学習に取り組む態度は育成されているが、思考・判断・表現については弱い部分がある。引き続き、実験を通して理解したこと、実験結果から考えられることをまとめていけるように指導していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体の正答率は、前年度の校内平均および区の平均を上回った。 領域別では「物質・エネルギー」では目標値を下回ったが、「生命・地球」では、目標値を上回った。	/	/
第2学年	全体の正答率は区の平均を下回った。内容別では区平均を下回った。	全体の正答率は、前年度の校内平均および区の平均を下回った。 領域別でも前年度の校内平均、区の平均を下回った。	/
第3学年	全体的には目標値を下回る結果であった。ただ、各分野において、「植物のからだのつくりとはたらき」と「動物のからだのつくりとはたらき」の正答率が目標値達成した。	昨年度より教科全体の達成率が高くなった。特に観点別正答率の項目では目標値に対して上回っている結果である。教科の正答率は全国平均及び区平均を上回っている。	教科全体の達成率は、目標値、区の平均ともに上回っている。しかし、全国平均と比べると若干下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均、全国平均ともに下回っている。	目標値、区平均、全国平均ともに上回っている。	目標値、区平均、全国平均ともに上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均よりも下回っている。	目標値、区平均よりも下回っている。	目標値、区平均よりも下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、区平均ともに下回っている。	目標値、区平均ともにわずかに下回っている。	目標値、区平均、全国平均を下回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストを設け、基礎基本の定着を図る。実験においては、実験器具の正しい使い方にも焦点を当てていく。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果から何が言えるか考えさせる。また、授業の際に適宜班活動も取り入れることで他者に自分の意見を伝える場を設けていく。	第1学年のため、まずは学習規律・学習習慣の確立を目指す。実験をおこない、まとめでICT機器を用いることで、生徒の関心・意欲を引き出す工夫をする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前時の復習を取り入れて、知識の定着を図る。小テストで基礎基本が身に付くように反復学習をする。実験する目的や、確認すべきところを理解して実験できるように指導する。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果から何が言えるか考えさせる。また、授業の際に適宜班活動も取り入れ、自分の考えを発表させる場面を取り入れる。	学習する内容が、日常生活に結びつけられるものは紹介し、興味をもたせる。またICT機器を用いて、調べ学習をしながら、みずからの課題が解決できる姿勢を育成する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期的に小テストや演習の時間を設け、基礎基本の定着を図る。化学分野では、実験を通してイオンの理解を深め、電流をとり出す電池の実験まで理解を深めていく。	実験時において、生徒自身で考える時間を大切にし、結果を文章やグラフ等で表現することを重視していく。また、実験後の話し合い活動も取り入れることで他者に自分の意見を伝える場を設けていく。	実験の機会を増やし、自分で実験の結果を確かめる機会を増やす。また、ICT機器を効果的に用いて、視覚的に理解を促し、生徒の関心・意欲を引き出すことで、自ら学ぶ姿勢を育成する。